

ヒューマンファクター分析法の 指導教材

(Manuals for Guidance of Human Factor Analyzing Technique)

【概要】

ヒューマンエラーに起因する事故を防止するためには、そのヒューマンエラーの発生に影響する要因を把握して対策を実施することが必要です。そのための分析手法として「鉄道総研式ヒューマンファクター分析法」を提案し、研修指導等の支援を行なってきましたが、このたび、バージョンアップした指導教材を作成しました。

【特徴】

- 運転や保線などの系統別の事例演習が可能です。
- 分析の留意点やコツを学ぶことができます。
- 背景要因を考える際の補助として、「なぜなぜ分析支援ツール」を活用できます。

[初級編]



- ◆情報の整理方法や背景要因の考え方などの分析法の概要や分析の流れを解説
- ◆エラーを2つのタイプに分け、それぞれに対応した対策の考え方を解説
- ◆3件の分析事例を例示

[中級編]



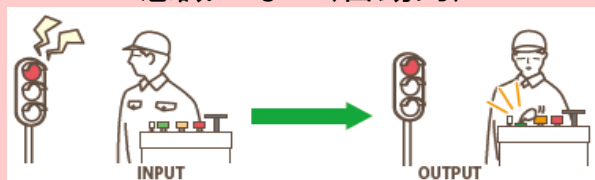
- ◆実務で分析を行う際の留意点やコツ、分析法の指導法を解説
- ◆エラーを2つのタイプに分け、それぞれに対応した対策の考え方を解説
- ◆なぜなぜ分析支援ツールを付録に収録

[初級編]と「中級編」の特徴

【用途】

- 事例演習を通して、分析法を身につけていく際の指導教材として使用します。
- 留意点やコツを理解し、なぜなぜ分析支援ツールを用いることで、適切な分析への効率化を図ります。

意識がない(自動的)



意識がある(自発的)



- 夜間作業は疲れる p.4
- 体調・健康および日常生活の改善 p.4
- 作業場所 p.5
- 使う人に合ったデザインを p.5
- 似ているものは近くに置かない p.6
- 違う点を確認する手順にする p.6
- 準備作業は忘れやすい p.7
- 途中で作業を区切らない p.7
- 後で . . . は思い出せない p.8
- あえて複雑にしておく p.8
- 事故を起こしやすい人の能力 p.9
- 事故を起こしやすい人の性格 p.9
- エラー防止設計 p.9
- 間違えにすぐ気づけば大丈夫かも p.10
- 人が行う作業をなくす p.10

- 誰からもわかるか p.13
- 確実に伝える p.14
- 読む気にさせるマニュアルのデザイン p.14
- 伝わっているか確認してから作業開始 p.15
- 指示を受ける気になるには p.16
- ルールの真の理解 p.17
- 思い出しやすい聞き方 p.17
- 不満があると、ルールを守る気にならない . . . p.18
- 仕事内容の満足感 p.18
- チームならではの要因 p.19
- 情報伝達のエラー p.19
- 伝え方のスキル p.20
- 安全風土の醸成 p.21

2タイプ別のエラーと対策の考え方の解説

なぜなぜ分析支援ツール

【実施例】

鉄道事業者で活用されています。

担当 人間科学研究部(安全性解析)